



新たな駅前の都市景観を創出(左からJRセントラルタワーズ、JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



駅と北側街区を結ぶ貫通路

名駅一丁目一番計画 (JRゲートタワー、 JPタワー名古屋)

review

選評

二〇二七年開業予定のリニア中央新幹線整備を見据え、バスターミナルの再構築を含めた交通拠点の再整備とJR名古屋駅を核とした業務・商業の更なる集積による魅力的な都市空間づくりを目指した都市整備事業である。このプロジェクトは、二〇〇八年十二月に纏められたJR東海、日本郵便他企業による「まちづくり基本構想」に基づき、複数事業者の連携により実現したものである。この度JRゲートタワーとJPタワー名古屋が増築され、一九九九年末に開業した既存JRセントラルタワーズと連続しJR名古屋駅と一体となった魅力的な回遊性のある立体都市が創出された。

JRゲートタワーには既存JRセントラルタワ

ーズより連続した地上七〇㍉、一五階レベルの長さ二五〇㍉に亘る第二の地盤として公共空間が設けられている。このスカイストリートには地上階よりシャトルエレベーターが接続し、オフィスロビー、ホテルロビーにアクセスすることができる。しかもスカイストリートからは、名古屋駅前の街並みを眺めることができるだけでなく、約七〇〇平方㍉の屋上庭園にも接していて、明るく開放感溢れる空中廊下として多くの市民が訪れる名古屋の新たな名所となっている。さらに二階レベルには、JRセントラルタワーズからJRゲートタワー・JPタワー名古屋を貫通する三層吹抜の歩行者空間が設けられている。この貫通歩行者通路にはオープンスペースやアトリウム空間が配置され、季節ごとのイベントが催され、賑やかさを演出すると共に、バスターミナルへ連絡できる交通の結節点ともなっている。

明快で利用しやすいターミナルへの再整備として、バスターミナルを一階に集中配置し、駅前の車道削減と建物外壁面を後退することにより地上レベルの歩道を拡幅している。地下街、地上、二階貫通通路を結んだ歩行者ネットワークが構築され、回遊性の確保とJR、地下鉄、バスへのアクセスビリティを向上させている。

敷地の四方をJR線、地下鉄東山線、JRセントラルタワーズ、タワーズ車路に囲まれ、敷地中



名古屋駅の新たなシンボルタワー

〔2018年 第59回 BCS賞受賞作品〕太田市美術館・図書館／高知県立高知城歴史博物館／コープ共済プラザ／新豊洲Brillia ランニングスタジアム／すみだ北斎美術館／洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff (e-cube)／空の森クリニック／高崎アリーナ／多治見市火葬場華立やすらぎの社／立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所／デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」／日本無線先端技術センター／パナソニック スタジアム 吹田／羽田クロノゲート／益子町地域振興拠点施設「道の駅まじこ」／〔特別賞〕名駅一丁目一番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋)



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。



建築主より

Message from Client

東海旅客鉄道株式会社
事業推進本部 担当課長

辻本憲二 Kenji Tsujimoto

名古屋の玄関口に相応しい都市空間の創出

本計画は、名駅一丁目地区のより良いまちづくりの実現に向け、隣接する日本郵便(株)他と協力し、「歩行者ネットワーク整備、バスターミナル再配置、更なる賑わいと活力の創出、魅力的な都市空間の形成」をコンセプトに進めてきました。

東海地方における最大の交通結節点である名古屋駅において、その玄関口に相応しいターミナル機能の強化に加え、利便性、快適性を備えた多様な都市機能を整備することで、名古屋駅地区の人の流れを大きく変え、一層の賑わいを生み出すことにつながったものと考えています。開業後は、市内はもとより近隣地域からのお客様、オフィスワーカーなど様々な方にご利用いただいています。

この賑わいが、名古屋駅地区のみならず、周辺へも波及し、地域全体の発展に繋がるよう、引き続き更なる活性化、賑わいの創出に取り組んでまいります。



設計者より

Message from Architect

大成建設株式会社
設計本部 設計室長

塩谷尚斉 Hisanari Shiotani

「豊かな駅前」に進化した名古屋駅北側地区

近年日本の都市において、駅を核とした駅前の再開発が活発化しています。中部圏の玄関口名古屋駅においても、交通利便性の改善と駅北側地区の更なる活性化を目指して、当プロジェクトが進み、事業企画から約10年の歳月で完成を迎えました。この規模の事業としては異例の速さでの実現です。1日100万人を超える駅利用者の想いを事業者側がしっかりと受け止め、強い想いでプロジェクトを遂行してきた結果の賜物といえます。またその思いを具現化する設計者、実現化する施工者との長期にわたる強力な関係構築によるものでしょう。

駅前に緑が増え、人の流れがスムーズになり、多くの人々が滞在できる空間や施設を整備したことで、「駅前が素敵になった」とあちらこちらで耳にするようになりました。これを契機として、リニア開業に向けた今後の開発により更に魅力ある街へ展開することを願っています。



施工者より

Message from Builder

大成建設株式会社
建築本部建築部 部長(当時統括所長)

吉野雄一郎 Yuichiro Yoshino

高難易度工事の施工をとおして

敷地の四方を鉄道などの稼働施設に囲まれ、敷地中央部にも鉄道が通る等、大変施工条件の厳しいプロジェクトでした。鉄道関連事故・第三者災害を絶対に防止する、建築主・設計者の想いをかたちにするにはどうすべきか。そう自問自答しつつ、建築・土木一体となった組織で工事を進めてまいりました。

解体開始からグランドオープンまで、約6年という期間の中、建築主をはじめとする関係者の皆様のご指導のもと、名古屋の新ランドマークとなる建物を施工できたことに対しては、感謝しかありません。

この建物が、永遠に名古屋のランドマークとして輝きを放ち、そして多くの方に愛されながら利用されるよう、私たちも、引き続き努力していきたいと考えています。



1. 駅前から続く拡張した緑豊かな歩道空間
2. 貫通通路の核となるアトリウム
3. 賑わいを創出するオープンスペース(駅前広場側)
4. スカイストリートと屋上庭園

名駅一丁目1番計画 (JRゲートタワー、JPタワー名古屋) 計画概要	
● 建築主	東海旅客鉄道(株) ジェイアールセントラルビル(株) 日本郵便(株)、名工建設(株)
● 設計者	大成建設(株)、(株)日建設計 ジェイアール東海コンサルタンツ(株) (株)日本設計
● 施工者	大成建設(株)、鹿島建設(株)、(株)竹中工務店
● 所在地	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3、1-1-1
● 竣工日	2017年2月28日
● 敷地面積	JRゲートタワー 11,695㎡ JPタワー名古屋 12,177㎡
● 建築面積	JRゲートタワー 10,495㎡ JPタワー名古屋 9,739㎡
● 延床面積	JRゲートタワー 260,000㎡ JPタワー名古屋 180,955㎡
● 階数	JRゲートタワー 地上46階、地下6階、塔屋1階 JPタワー名古屋 地上40階、地下3階、塔屋1階
● 構造	鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)

「選考委員」 後藤春彦・能勢修治・栗山茂樹

中央部には名鉄本線が通るといふ非常に制約が多く、難易度の高い地下工事である。掘削時のリバウンドによる周辺への影響軽減を図るため、上載荷重の管理を徹底して計画した逆打工法を採用し、施工中には変位計による二四時間体制での継続監視によりこの難工事を無事故で達成している。

リニア中央新幹線整備に向けた名古屋駅周辺の一連の本再整備と合わせ、今後予定されている名古屋市中心部栄地区の再整備との相乗効果により、国際都市名古屋として、更なる魅力的な活力ある街づくりに期待したい。